

啓発活動・連携強化 WG web 会議

日時：2020年10月28日 21時～22時 ZOOM 会議

1.ご参加いただいた先生方の自己紹介と何を行っていきたいか

日下 美穂部会長：

病診連携は、脳卒中や心筋梗塞のような大きな病気はすぐに紹介できて受け取っていただけます。ただ、開業医の先生が「血压の薬は、この次にどういう薬を使った方がいいのか」とかの場合に相談する所が無く、大きな病院にも相談しにくい。その先生方が実地医家部会の先生方に、ちょっとしたその相談ができたらいいなと思っています。患者さんにとっては血压をコントロールできるか否かで、10年先が異なった人生になる事もあるので、みんなで相談し合える雰囲気が出たらいいと思っています。また、水田先生と同じように学校・企業と連携をして、子供の食育をしたり、減塩の商品を作ったり、高血圧にならないような生活習慣を推進する企業対象のweb講演を行う等を行っていただければと思っています。

柘植 俊直先生：

高血圧に対して、回りの方を巻き込み、地域医療の中では貢献していかなければならないと感じています。今回このWGへ参加させていただくこととなったので、周りの人を巻き込んでいき、地域の患者さんに貢献できればいいなと考えています。

やりたい事について、たくさんある中の一つとしてイメージしているのは「高血圧診療マスタークラス講習会」のような事を広げていく事です。

町場で高血圧診療を診断されている先生方は沢山いらっしゃるが、必ずしも内科の先生というわけではなく、例えば、整形外科の先生が診療されていたりしている。その先生の中には色々なことが知りたいが、実際はその講習を受けたくても受けることができない。

そのような方に地域で「高血圧診療マスタークラス講習会」のようなものが広がっていかないとイメージしています。

八田 告先生

啓発活動・連携強化WGで考えていることは、減塩に関しては少しテーマから外していただき(減塩推進WGがあるため)、もちろん減塩推進WGとのコラボはあります。

学校、地域、病診連携に重きを置いたグループとイメージしています。

鹿児島島の枕崎のパチンコ屋さんに血压計を置くような、高血圧、もしくは血压を全国普及させる。体重計のように血压計を計り、そして血压を計ることが当たり前で、血压が正常なもの当たり前。そのような世の中になればと思っています。そのために子供からの教育、それから地域における教育(スーパーに血压計を置く等)もアリかなと考えてい

ます。

それが実現するには、どうすれば我々地域でいいのかということをやっていければ
と思っております。また、モデル地域を作ってやっていく。これは学会でもやられてい
るが、規模として大きいので中々ハードルが高い感じがするので、地元の所で細々やっ
ていき、それで輪を広げていけたらいいと思っております。

田中 隆光先生

日々の診療で思っている事は、高血圧の薬は飲んでいますが、コントロールは不十分の方
がたくさんいらっしゃる。「コントロールを良くしないと」、とお話をして中々理解を
得ることができない。

開業医として働きながら、地域として何ができるか。という事を考えていた。学校や地
域で、現役で働いていらっしゃる方へ、どのようなアプローチしていくことが効果的な
のかを考えているところです。先生方のご意見を伺いながら自分ができることは何か
無いかな、とやっていきたいと思えます。

勝谷 友宏副部長

実地医家部会はボトムアップでできた会です。学会が主導でできた会ではない為、
水田先生や田中先生のようなご意見を学会へあげていただき、山陰ではこれができる。
浜松ではこれができる等、地域性があるものを色々作っていき、それが良いものならば
全国に広げる。そのアイデアをあげたり、実際に少し行ってみたりするのが実地医家部
会だと思っております。

大学で長く研究をしていたので、色んな方とのお付き合いがあります。

「こんな事をしたいけど、こんな繋ぎができない？」と伺っていただければ、意外なと
ころで意外な方を知っていたりします。

連携とは水田先生の仰る通り、通り一遍な地域包括ケアではなくて、自由な発想で出し
ていただけたら、その発想について、実地医家部会ではこの部分を行うが、学会ではこ
ちらを行ってほしい等、住み分けして行っていけたらなと思っております。

2.啓発活動・連携強化

・どこに向けて啓発活動を行うか

(水田先生)病診・診診連携、行政、学校・企業、スタッフ間、高血圧診療マスター
クラス。これらについて、ワーキングで1つずつ挙げ、委員の方へこうしたらどうか、
こういうところが問題だ等の意見をあげていただき、それぞれを議事録に載せ、ホーム
ページに上げていこうと思えます。web会議の頻度は月に1回を目途に行う予定です。
第一回目は病診・診診連携について行っていこうと思えます。

3.水田先生が今までに行ってきた連携について下記のようにご説明頂いた。

- ・病診連携・診診連携
県医師会広報の先生へ働きかけ
高見解・医師会雑誌への総説執筆 テレビ出演
- ・行政
米子市健康対策課へ売り込み 公民館講話・グループワーク
- ・学校
県医師会学校医部会への売り込み
→県教育委員会への働きかけ
※減塩についての授業を行い、食育を行っている。
- ・企業
県産業技術センターへの売り込み
減塩ひもの開発・病院での提供
減塩食品アワードへの出品
- ・高血圧・循環器予防療養指導士(スタッフ間の連携)
→山陰はほぼ0(鳥取県・島根県をあわせてお1人)、指導士の方がいらっしゃると聞き、ご連絡を行うと退職等をされていて連携ができていない為、うまくいっている先生方のお知恵を拝借したいと思っています。

今後は一つずつテーマを決め、議論をおこなっていければと思っています。

4.ご質問・ご意見：

八田先生

- ・連携強化の先について絞ってお話をしていくのでしょうか。
→(水田先生)どこを対象にするかについて一つずつテーマをあげていき、WGの先生方に共有できればと思っています。
- ・実際にこんなことを行っています。こんな事をやったらいいのではないか。について事前にテーマを与えていただき、それを持ち寄って参加するという感じでしょうか。
→(水田先生)その方がいいのかなと思っています。ぜひ上手くいった症例を実地医家部会のHP等のメディアで露出していくのかについても考えていきたいです。
- ・いいものについては、ニュースメールで会員の先生への発信していくのも一つの手だと思います。月に一回「委員会からのお知らせ」として高血圧学会の会員向けにニュースメールを配信しているので、そちらに掲載を行うのも一つの手だと思います。

日下先生

いいアイデアについては、学会でも発表していくのが良いと思います。

どんどん発表していただき、シンポジウムでも発表していくと啓発されて良いと思います。

→(水田先生)ぜひ学会発表にも結び付けていければと思っています。

勝谷先生

このWGだけではなく、実地医家部会の先生方へご案内いただくことによって、

「うちもやっています。」というような手上げがあるかもしれませんので、そのような方を集めてシンポジウムを行っていただくと、更に「それではうちでもやってみよう」という方が出てくる可能性があるのでは、是非行っていただきたいと思います。

また、八田先生にご作成いただいたHPがあるので、そのHPに「減塩ひものってどんなの!？」みたいに30秒程度の動画を作成していただき、載せるとインパクトがあるのではと思っています。

八田先生

啓発については、若い人を対象にするのがいいと考えている。スマートウォッチ等で手軽に測定するものが増えてきている。高血圧学会としては推奨していないとは思いますが、世の中には普及している。それで実際に血圧を測定している方はかなり多いと思います。そういうものを実際にWGメンバーが体験して、こんなのでした等のレポート記を出してみるのは面白いと思う。それを広く皆様へ見て頂くと、「専門家から見るとこんないい点もあるし、こんなデメリットもあるんだ」という事を素直に表現してみる。これを学会で行うのはハードルが高いと思うが、実地医家部会ならできるのではないかなと思っています。

八田先生

47都道府県へ実現しようとなると「こういう成功例があります」と、実地医家部会から提示し、高血圧学会から文部科学省等へ伝え、単位の中に高血圧や塩分についての教育を入れるよう進言していただく。それで、誰に相談すればいいか?となったら、地域に実地医家部会の専門医等の先生方がいらっしゃるのでは、その先生方へ相談をしてください。となると、各先生方へ依頼が来ます。依頼が来た方がやり易いと思うので、その方が実現しやすいのではと思います。

→(勝谷先生)教科書等は6年ごとの見直しとなっているため、文部科学省を動かすことは難しい。ただ、現場の実習とかについては動ける部分があると思います。

一例報告等を学校で話をしたらこんなレスポンスがあったと、医師会の先生や行政へお話しをすると、「そんなことができるんだ。じゃあやってみよう」となる。中々カリキュラム全体を直すのはハードルが高くみんなやめてしまうが、まず一例からでいいと思っています。ただ、それをやってみてどうだったのかを外に発信していくことが大切だと思っています。

ます。

日下先生

自分が行ったことを発信し続けると、向こう側が「やり始める」ようになります。
日下先生が講演会等で「子供達に減塩が一番大事、学校給食等での食育が大事」等を伝えていた。それを呉市がみて、「私たち(呉市)が減塩給食にした」という事で、減塩給食が実現しました。伝えたいことをしっかり伝え、相手をたきつけるようにすれば、市役所等のレベルでは実現できると思います。

とにかく発信をして、「自分たちもやらなくちゃ」と思わせるような雰囲気醸し出せるようにすればいいと思います。

また、日本高血圧学会の実地医家部会という肩書をつたえる事により、話が伝えやすくなる可能性もあります。

→(水田先生)ちょっとしたコツでドンドン切り開けると思っています。

それでうまくいったものは、発信を行っていくのがこの啓発活動・連携強化 WG だと思っています。

八田先生

実地医家部会には予算は出ているのでしょうか。

→(勝谷先生)実地医家部会全体ではかなり少ないが10万円出ている。

ただ親委員会へ実地医家部会から企画を出して予算を組んでもらうことはできる。

また、J-DOMEについても学会本体にJ-DOMEのタスクフォースができるが、実地医家部会のJ-DOMEとある程度仕訳けて良いと思います。

実地医家部会の良いところは(倫理的に問題ない範囲で)しびりが無いところだと思っています。

5. サブリーダーについて

水田先生のご推薦で、柘植 俊直先生、田中 隆光先生のお名前が挙げられ、お二方ともご承諾をいただいた。

水田先生より、今後はテーマを決めてWGを続けていく旨の説明があり、web会議を終了した。

以上